

学術フォーラムの概要について(事後報告)

1 名称：日本学術会議主催学術フォーラム【科学・技術を担う将来世代の育成方策を考える—教育と科学・技術を価値創造につなぐために—】

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：なし

3 開催日時：平成 25 年 8 月 12 日（月）13:00～17:00

4 開催場所：日本学術会議講堂

5 開催趣旨：

課題別委員会：科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会では、将来の日本の科学技術を担う人材の育成のための方策、活動などが、全体として建設的な方向性をもっているとは言えない状況を検証し、平成 25 年 2 月に「提言：科学・技術を担う将来世代の育成方策」を公表した。その要点は、①初等教育、中等教育、高等教育、さらに生涯教育の間の連携と橋渡しの強化、②専門的研究者・技術者の育成、③ポスドク等の専門的研究者・技術者の活躍を支援するための社会システムの構築等である。

一方、これまでも様々な人材育成についての議論がなされ、報告書が出されているが、それらが実効ある大きな流れとなっていないのは、それらの諸施策をつなぐ仕組みと全体のビジョン、及び司令塔の機能が弱いことに原因があることも、提言では指摘している。

21 世紀におけるわが国の持続的発展の実現のために、科学・技術の継続的革新と、それを担う次世代人材育成に向けた教育の強化によって、新しい社会経済的価値の創造、すなわち、より豊かで調和ある社会の創造を進めることが重要である。

そのような観点から、上記の「提言」では、教育の各段階の橋渡し（科学技術を担う人材と科学技術と社会との関わりについて判断できる人材の育成、各教育段階における科学技術イノベーション教育との一体的推進）、専門的科学技術人材の活躍のための社会基盤（キャリア支援、セーフティネット構築、人事交流）等に係る各政策の一体的振興策を提案している。

今回、本提言の報告と共に、科学・技術を担う研究者、技術者、産業界をつなぎ、また人材育成の各段階（初等-、中等-、高等-、生涯教育）、を担う教育界、関連行政界、産業界も含めた様々な関係者が一堂に会して、次世代の科学技術を担う人材育成に対する理解、共感、協働の強化と、そのために必要なインフラの整備などについて議論をし、本課題に対する社会の認識と理解を深めることを目的とする。

6 参加人数

講演者等（登壇者）：7 名、 受付・会場係等関係者：9 名
その他の参加者：約 180 名

7 特記事項

- ① 事務方の広報活動や登壇者からの呼びかけが功を奏し、金曜日の昼間という時間帯にもかかわらず、登壇者と関係者を除く参加者が約 180 名となった。遠隔地からの参加者もあり、テーマへの関心の高さがうかがえた。
- ② パネルディスカッションは、多様なバックグラウンドを持つ参加者との質疑応答で非常に盛り上がり、予定した時間（90 分）では不足の感があった。残念ながら時間切れとなったが、この委員会の活動を、何らかの形で継続することを要望する声も多く、また、関連テーマでのフォーラムの開催を望む声も多かった。終了後にも、数名の参加者が会場に残って、熱心にパネラー等とのディスカッションを続けた。